

# 松山大学ハングル学習者のニーズ分析と 韓流に関する意識調査

李 熙 卿

## 1. は じ め に

本稿は松山大学での言語選択科目韓国語<sup>1</sup>（科目名「ハングル」）、ハングル履修者に対してニーズ調査を行い、分析したものである。現在ハングルを履修している学習者はどうしてハングルを選んだかという学習へのモチベーション・学習目的・到達目標・学習に関する関心度・学習に取り組む姿勢・満足度などハングル授業全般的な面でのニーズ分析 (Needs Analysis) を実施することにより、今後第2外国語としてのハングル授業に学習者の意見を反映し、学習効果と満足度を高めることを目的としている。さらに、ハングルのコースデザイン (Course Design) をする時、学習者のニーズに合ったカリキュラム編成にも結び付け、学習者の意見を授業に反映する学習者中心 (Learner-Centered) 教育ができることをめざしている。

外国語教育での学習者のニーズとは、一般的に学習者が習得しようとする目標言語を必要とする状況や言語スキルなどである。そのニーズを調査して、結果をまとめたものをニーズ分析 (Needs Analysis) という。

このような学習者のニーズ分析は、外国語教育が教授者の一方的な教育だけではなく、学習者との相互関係から成り立つものとして、教授者と学習者が円滑にコミュニケーションをとるためには必ず必要なものであるといえる。こういう点から、本学のハングル学習者の履修目的やスピーキング・リスニング・リーディング・ライティングという4つの言語スキルの中で、学習者が最も能力を培いたい機能は何かという分析は、教授する側が、教授内容・教授法などを学習者のニーズに対応する時、役に立つと思う。

また、本稿では、ここ数年日本の大学において、韓国・朝鮮語学習者数が増え

ている現象は、最近の韓流（ハンリョウ）といわれる韓国文化ブームの社会現象の影響を考えざるを得ない。現在松山大学でハングルを履修している学習者はこの韓流（ハンリョウ）をどれくらい意識し、韓国語という語学の学習には実際どのような影響を受けているかなどについて調べてみることにした。このような韓流ブームについて2004年度NHK放送文化研究所の『放送研究と調査』の世論調査によると、韓国ドラマ「冬のソナタ」視聴者の50%が「韓国文化へ積極的に触れるようになった」と答え、26%の人が「韓国のイメージが変わった」と答えている。このような現象は、一般の人だけではなく大学生にもその影響を及ぼしていると考えられる。

松山大学での韓国語学習者数を考えてみると、現在、外国語選択科目「ハングル」は2003年度では、3クラス、2005年度は、その2倍の6クラスになっている。また2006年度には、11のクラスになっている。このように単純に考えてみても、確かに学習者数は増えているといえる。

実際、国際文化フォーラムの2005年度資料によると、1995年から2002年・2003年までの期間に韓国・朝鮮語の実施校の割合は、四年制大学全体で、25.3%から47.7%にと22.4ポイント増加していると報告されている。＜表1＞をみると、1995年度を基準にすると、2002年から2003年までの変化は、四年制大学では、私立大学2.43倍、国立大学2.32倍、公立大学1.89倍の割合で増えており、全体では2.34倍に増加していることが分かる。

＜表1＞『日本の学校における韓国朝鮮語教育：大学等と高等学校の現状と課題』

(国際文化フォーラム 2005 年度資料)

年度	私立		国立		公立		四年制全体	
	開設校	増加率	開設校	増加率	開設校	増加率	開設校	増加率
1995 年	100	1	25	1	18	1	143	1
2000 年	187	1.87	46	1.84	30	1.67	263	1.84
2001 年	204	2.04	49	1.96	32	1.78	285	1.99
2002 年	234	2.34	58	2.32	30	1.67	322	2.25
2003 年	243	2.43	58	2.32	34	1.89	335	2.34
注：	1995 年度の数字は韓国教育財団（1996）をもとにした。 1995 年度の数値 = 1							

調査方法は、アンケート形式で2005年度本校で開かれた前期ハングルⅠの6つのクラスの中で、著者が担当した1・3・5クラスの学習者119名が対象であり、前期の終わりである7月上旬にアンケート調査を実施した。アンケート調査項目は、「基本項目・韓国語学習・韓流への意識」3つに分かれている。

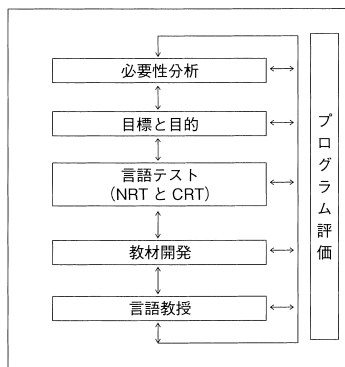
本校のハングル授業は前期にハングルⅠを履修し、後期にハングルⅡを履修しなければならない。また、前期・後期ともに90分授業2コマを毎週行っている。前期のハングルⅠの授業を通して、ハングル文字を習得し、簡単な自己紹介などができるようになり、文法学習としては、用言の丁寧形活用である「— 습니다」形まで習得することを到達目標としている。

## 2. 先行研究

ニーズ分析 (Needs Analysis) は、英語教育では1970年代からESP (English for Specific Purposes) 研究とともに始まり、現在外国語教育においては、必須不可欠なものとして研究が行われている。最近韓国語教育においても大学院生のための韓国語教育・労働者のための韓国語教育のコースデザインやシラバスデザインにもニーズ分析研究が行われている。

和田 (1999: 309-310) は、Needs Analysis を「必要性分析」と訳し、その目的として学習者と学習者の学習すべきことは、言語材料の観点から表現される場合の事項が最も多いと言う。また、このような「必要性分析」は、言語学習プログラムでは学習者が最大の「顧客」であり、カリキュラムは顧客の必要性に必ず答える必要がある。

<図1> 言語カリキュラムの体系的枠組み (和田 1999: 309)<sup>2</sup>



具体的なアンケート項目の作成においては、近藤(1999)と菊池(2004)を参考にしている。菊池(2004:154)は、英語教育に関するものを<表2>で提示している。近藤(1999)外は、日本の大学でのドイツ語教育と現状、また、課題については、日本独文学会ドイツ語教育部会においてドイツ語教育に関する調査研究委員会が調査したものである。

**<表2> ニーズ分析のための6項目の質問タイプ(菊池 2004: 154)**

Target Tasks	学習者は、どのようなことを将来英語を使っていきたいのか。
Problems	学習者は、リスニングにおいてどのような問題点をもっているのか。また、授業に対してどのような不平、不満をもっているのか。
Preferences	学習者は、授業でどのような教材を聴いてみたいのか。
Abilities	学習者は、英語を使用して現在何ができるのか。
Attitudes	学習者は、授業においてどんなことを好み、どんなことを好んでいないのか。
Solutions	学習者は、英語リスニング能力向上のためにどのようなアイデアをもっているのか。

### 3. 調査結果

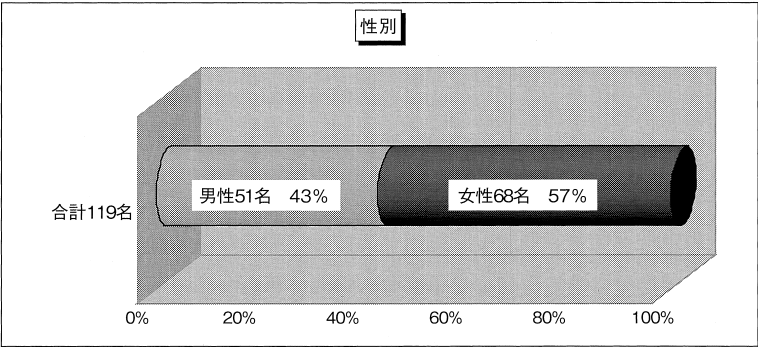
#### 3. 1. 基本項目

##### (1) 性別

男	51 名
女	68 名
合計	119 名



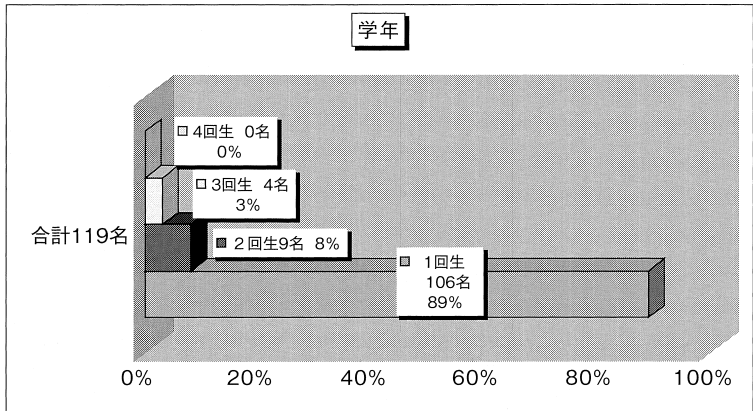
<図2：性別>



(2) 学年

1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	5 回生
106 名	9 名	4 名	0 名	119 名
89%	8%	3%	0%	100%

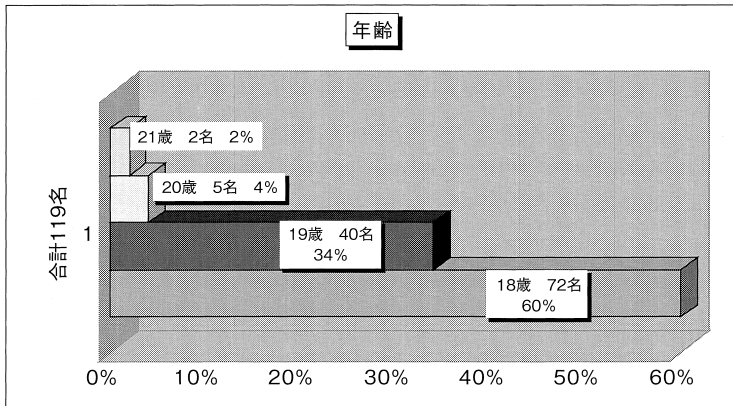
<図3：学年>



(3) 年齢

18 歳	19 歳	20 歳	21 歳	合計
72 名	40 名	5 名	2 名	119 名
60%	34%	4%	2%	100%

<図4：年齢>

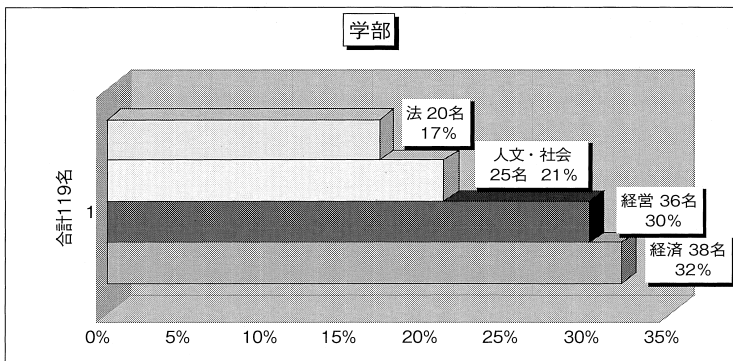


ハンデルⅠは1回生を対象とする科目であるため、学習者の60%が18歳である。

(4) 学部

経済	経営	人文・社会	法	合計
38名	36名	25名	20名	119名
32%	30%	21%	17%	100%

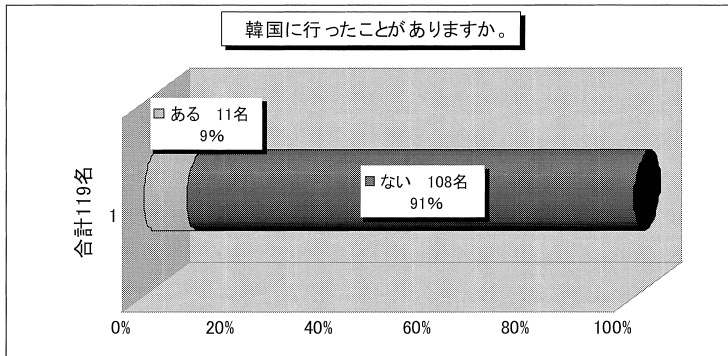
<図5：学部>



## (5) 韓国に滞在したり，旅行をしたことがありますか。

ある	ない	合計
11 名	108 名	119 名
9%	91%	100%

&lt;図 6：韓国に行った経験&gt;



## (5 - 1) 期間

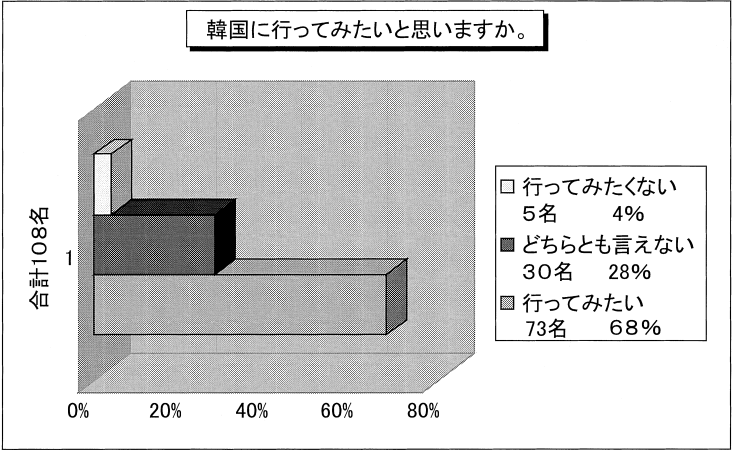
2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	合計
0 名	7 名	3 名	0 名	1 名	11 名

## (5 - 2) 韓国に行ってみたいと思いますか。

韓国に行ったことがないと答えた人 108 名の回答である。

思う	どちらとも言えない	思わない	合計
73 名	30 名	5 名	108 名
68%	28%	4%	100%

<図7：韓国に行ってみたいと思いますか。>

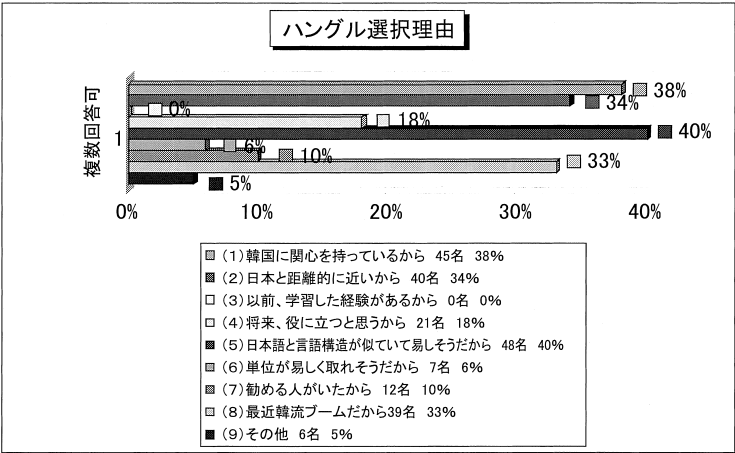


3. 2. 韓国語授業について

(1) 外国語の中で韓国語を選択した理由はなんですか。(複数回答可)

韓国に関心を持っているから	45 名	38%
日本と距離的に近いから	40 名	34%
以前、学習した経験があるから	0 名	0%
将来、役に立つと思うから	21 名	18%
日本語と言語構造が似ていて易しそうだから	48 名	40%
単位が易しく取れそうだから	7 名	6%
勧める人がいたから	12 名	10%
最近韓流ブームだから	39 名	33%
その他	6 名	5%

＜図 8：ハングルを選択した理由＞



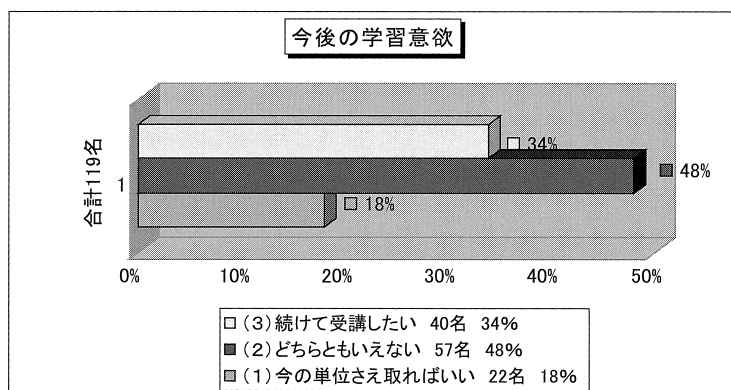
ハングル選択の理由としては、日本語と言語構造が似ていて易しそうだからが40%と最も多く、その次は、韓国に関心を持っているからが38%、日本と距離的に近いからが34%となっている。

その他の意見としては、ほかに良いのがなかったから、なんとなく、旅行に行きたいから、ハングル文字が読めるようになりたかったから、高校の時から韓国の車に興味があったから、食べ物が美味しそうだからなどがある。

(2) 現行の韓国語学習後、外国語選択科目として、今後も続けて学習したいと思いますか。

今の単位さえ取ればいい	22 名	18%
どちらともいえない	57 名	48%
続けて受講したい	40 名	34%

&lt;図9：今後の学習意欲&gt;

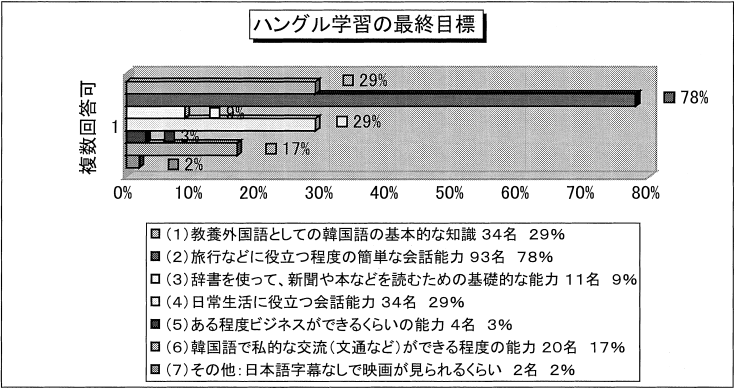


- (3) 韓国語の最終学習目標として、どんな能力を獲得したいと思いますか。  
(複数回答可)

教養外国語としての韓国語の基本的な知識	34 名	29%
旅行などに役立つ程度の簡単な会話能力	93 名	78%
辞書を使って、新聞や本などを読むための基礎的な能力	11 名	9%
日常生活に役立つ会話能力	34 名	29%
ある程度ビジネスができるくらいの能力	4 名	3%
韓国語で私的な交流（文通など）ができる程度の能力	20 名	17%
その他	2 名	2%

ハングルを選択している学習者の80%近くが最終的到達目標として、旅行などに役立つ程度の簡単な会話能力と回答している。その他の意見としては、日本語字幕なしで映画が見られるくらいと回答した人が2名いる。

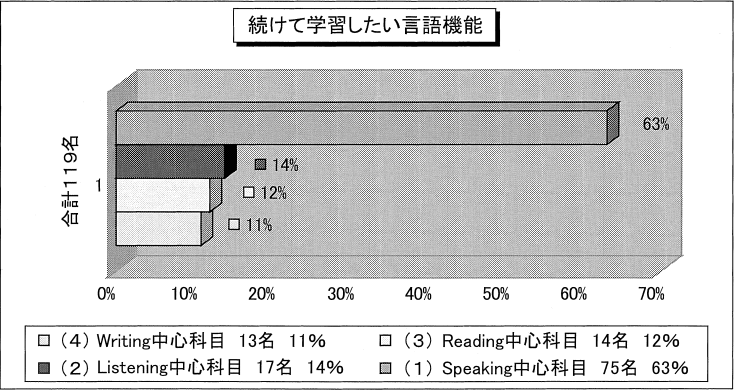
<図 10: ハングル学習の最終目標>



(4) 今後、韓国語学習を続けるとしたら、どんな選択科目を受講したいと思いますか。

Speaking 中心科目	75 名	63%
Listening 中心科目	17 名	14%
Reading 中心科目	14 名	12%
Writing 中心科目	13 名	11%

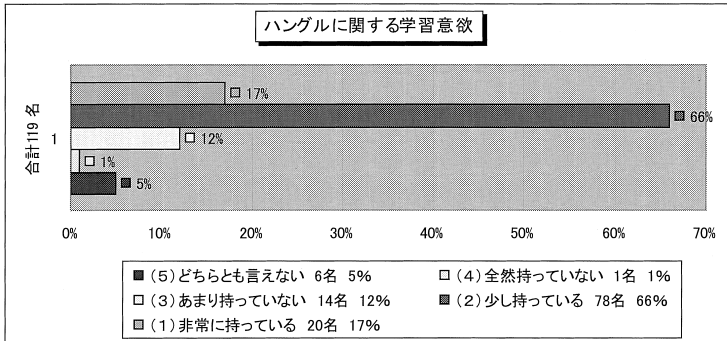
<図 11: 続けて学習したい言語機能>



(5) 韓国語学習に現在、どの程度、興味や意欲を持っていますか。

非常に持っている	20 名	17%
少し持っている	78 名	66%
あまり持っていない	14 名	12%
全然持っていない	1 名	1%
どちらとも言えない	6 名	5%

<図 12: ハングルに関する学習意欲>



学習意欲に関しては、80%以上が学習意欲を持っていると回答している。

(5-1) 質問5で、「興味を持っている」と答えた人に尋ねます。興味を感じるのはどの点ですか。(複数回答可)

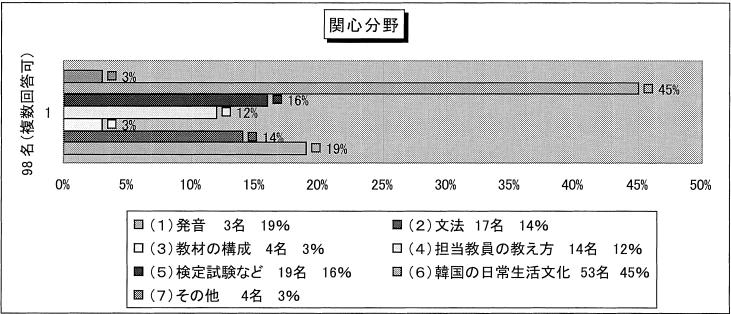
発音	23 名	19%
文法	17 名	14%
教材の構成	4 名	3%
担当教員の教え方	14 名	12%
検定試験など	19 名	16%
韓国の日常生活文化	53 名	45%
その他	4 名	3%

興味を持っていると回答した 98 名中、韓国の日常文化に関心を持っている人は 45%と一番多かった。その他の意見は、テレビなどをみて、文字の形、会話の



面白さ、言語そのものに関心があると回答している。

<図 13: 関心分野>

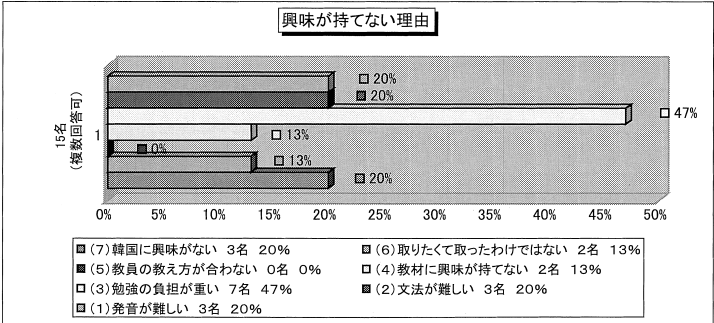


(5－2) 質問5で、「興味を持っていない」と答えた人に尋ねます。その理由はどこにあると思いますか。(複数回答可)

興味を持っていないと答えた15名の回答の中で、7名が勉強の負担が重いと答えている。

発音が難しい	3名	20%
文法が難しい	3名	20%
勉強の負担が重い	7名	47%
教材に興味を持ってない	2名	13%
教員の教え方が合わない	0名	0%
取りたくて取ったわけではない <sup>3</sup>	2名	13%
韓国に興味がない	3名	20%

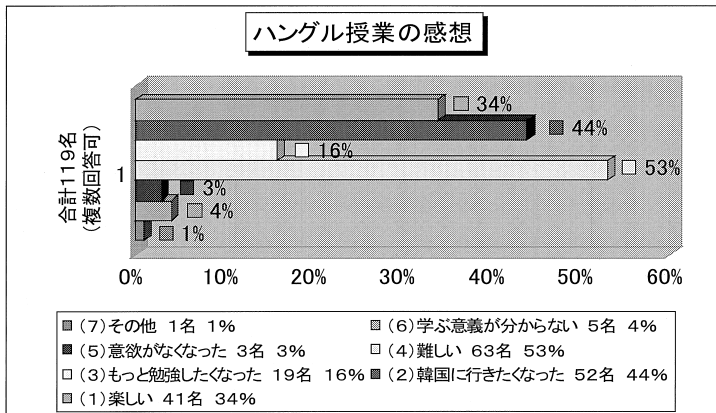
<図 14: 興味を持ってない理由>



(6) これまでの韓国語授業を通じて、どんな感想を持ちますか。(複数回答可)

楽しい	41名	34%
韓国に行きたくなった	52名	44%
もっと勉強したくなった	19名	16%
難しい	63名	53%
意欲がなくなった	3名	3%
学ぶ意義が分からない	5名	4%
その他	1名	1%

<図 15: ハングル授業の感想>



授業の感想として、難しいが53%と、一番多かったが、楽しい・韓国に行きたくなったという比較的肯定的な答えをした学習者の中でも、難しいと複数回答した人がある。その他の意見としては、1名がよい時間を過ごせたと回答している。

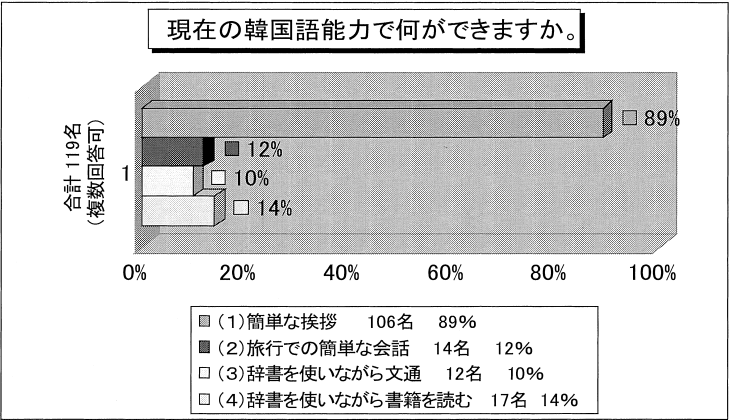
(7) 現在の韓国語能力でどんなことができますか。(複数回答可)

前期のハングルⅠを通して学習者自ら自分の言語能力を判断して、簡単な挨拶はできると答えた人が89%と一番多かった。

簡単な挨拶	106 名	89%
旅行での簡単な会話	14 名	12%
辞書を使いながら文通	12 名	10%
辞書を使いながら書籍を読む	17 名	14%

無回答 1 名

＜図 16: 現在の韓国語能力でできること＞

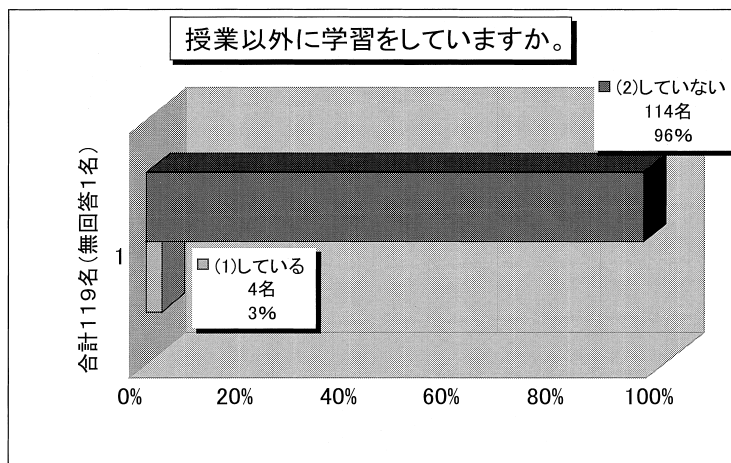


(8) 学校の韓国語授業以外に韓国語学習をしていますか。

している	4 名	3%
していない	114 名	96%

無回答 1

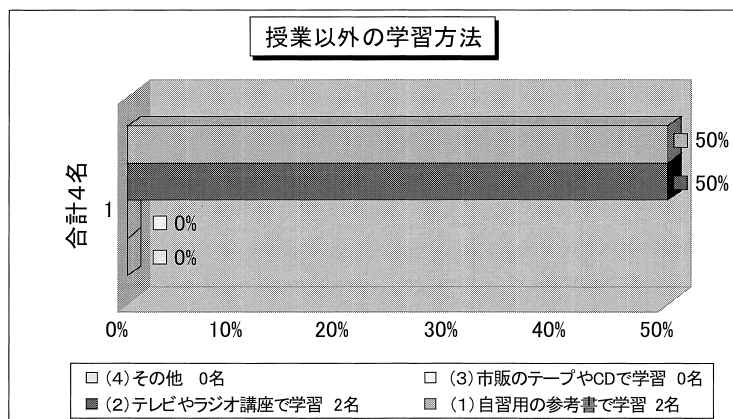
&lt;図 17: 授業以外の学習&gt;



(8-1) 質問8で、(1)「している」と答えた人に尋ねます。それはどんな方法でしていますか。(複数回答可)

自習用の参考書で学習	2名
テレビやラジオ講座で学習	2名
市販のテープやCDで学習	0名

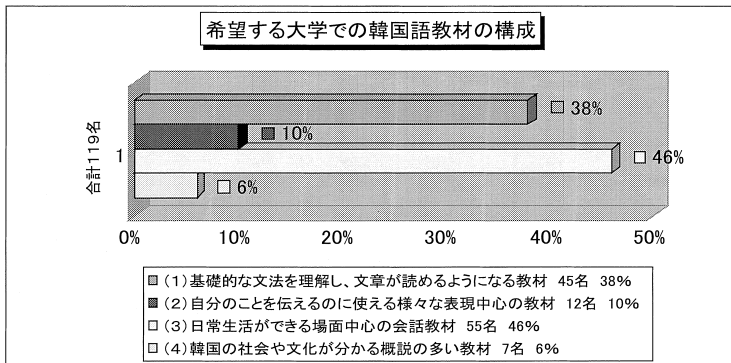
&lt;図 18: 授業以外の学習方法&gt;



- (9) 大学での韓国語教材はどんな内容を主に構成したほうがいいと思いますか。  
(1つだけ)

基礎的な文法を理解し、文章が読めるようになる教材	45名	38%
自分のことを伝えるのに使える様々な表現中心の教材	12名	10%
日常生活ができる場面中心の会話教材	55名	46%
韓国の社会や文化が分かる概説の多い教材	7名	6%

＜図 19: 希望する大学での韓国語教材の構成＞

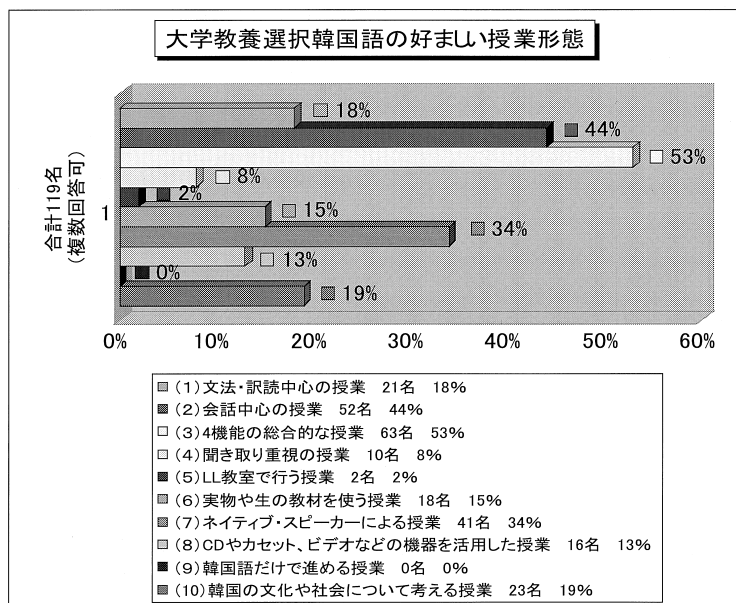


調査結果、学習者の50%近くが日常生活ができる場面中心の会話教材を望んでいることが分かる。こういう点から、本学のハングル科目の教材としては、「状況・場面シラバス」に基づいて作成したほうが学習者のニーズに合わせることができるといえる。

- (10) 大学教養選択韓国語の授業形態として好ましいと思うのはどれですか。  
(複数回答可)

文法・訳読中心の授業	21名	18%
会話中心の授業	52名	44%
4機能の総合的な授業	63名	53%
聞き取り重視の授業	10名	8%
LL教室で行う授業	2名	2%
実物や生の教材を使う授業	18名	15%
ネイティブ・スピーカーによる授業	41名	34%
CDやカセット、ビデオなどの機器を活用した授業	16名	13%
韓国語だけで進める授業	0名	0%
韓国の文化や社会について考える授業	23名	19%

<図 20: 好ましい授業形態>



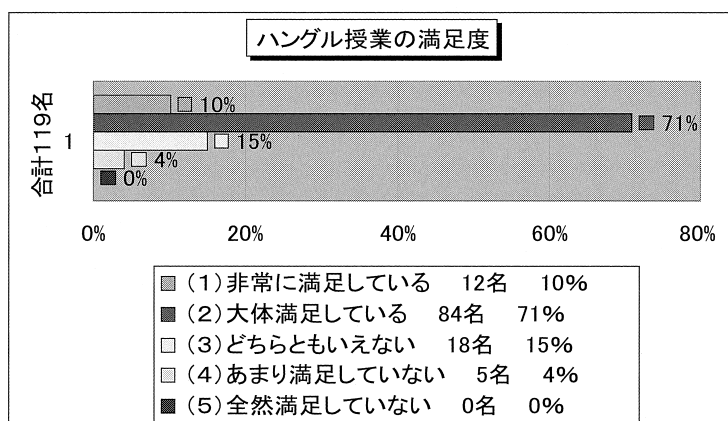
好ましい授業形態としては、4機能の総合的な授業が53%と、一番多く、その次は、会話中心の授業44%、ネイティブ・スピーカーによる授業34%であった。

しかし、韓国語だけの授業形態に関して0%という回答が出たということは、ネイティブ・スピーカーによる授業でも学習者の母語である日本語を使いながらの授業を望んでいることが分かった。また、学習者の20%近くが言語学習だけでなく、文化や社会について関心を持っており、韓国文化や社会に関しても授業の中に積極的に取り入れたほうが良いということが分かった。

(11) これまでの韓国語の授業を振り返ってみて、どの程度満足していますか。

非常に満足している	12名	10%
大体満足している	84名	71%
どちらともいえない	18名	15%
あまり満足していない	5名	4%
全然満足していない	0名	0%

<図 21: ハングル授業の満足度>

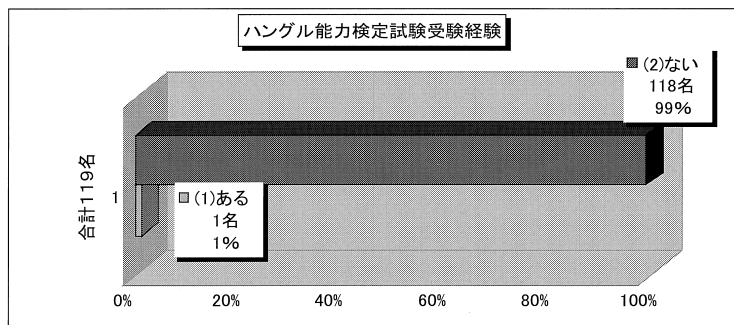


前期のハングル I を履修している学習者の80%以上が授業に満足していることが分かる。

(12) ハングル能力検定試験を受験した経験がありますか。

ある	ない
1 名	118 名
1%	99%

<図 22: ハングル能力検定試験受験経験>



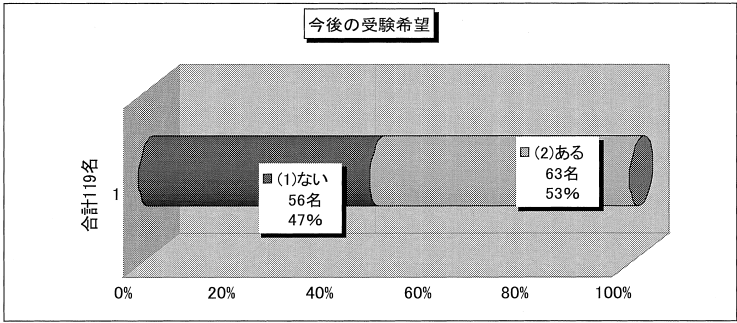
2005 年度前期の授業では、6 月に実施された第 24 回ハングル能力検定試験を受けた人は1名であり、アンケート項目 (12-1) で5級を受けていたことが分かった。

(13) これから、ハングル能力検定試験を受験してみたいと思いますか。

思う	思わない
63 名	56 名
53%	47%



<図 23: 今後の受験希望>

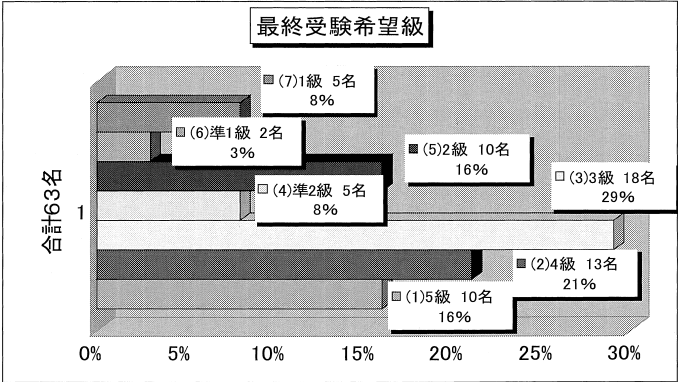


それほど大きい差はなかったが、今後受験を希望する人が、53%とやや多かった。

(13 - 1) 質問 13 で、(1)「思う」と答えた人に尋ねます。最終的に何級まで受験してみたいですか。

5 級	4 級	3 級	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級
10 名	13 名	18 名	5 名	10 名	2 名	5 名
16%	21%	29%	8%	16%	3%	8%

<図 24: 最終受験希望級>



今後受けてみたいと答えた63名のうち、最終的に3級まで目指したいと回答した人が29%ともっとも多かった。

(14) 韓国語能力向上のために、自分はどのようなアイデアを持っていますか。意見を自由を書いてください。  
学習者の自由記述として以下のように回答している。

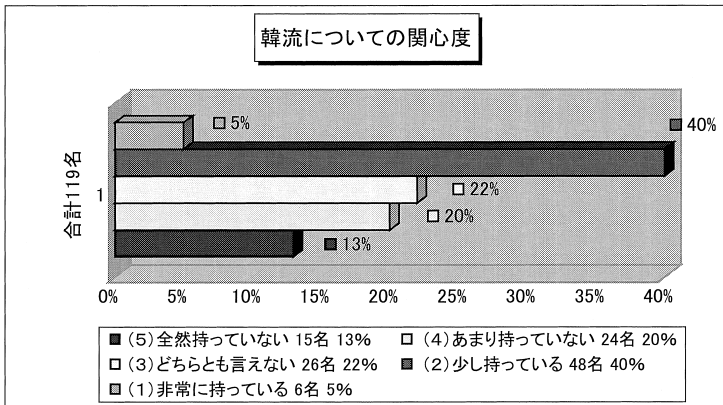
- ・ 韓国のCD やビデオを見たりする。
- ・ 映画等で聞き取れた単語を書いていく。
- ・ 地道に復習すればいいと思う。
- ・ 韓国に留学に行きたい。
- ・ 韓国語と関わる機会を増やすことが良いと思う。
- ・ 自分が韓国へ行った経験を活かしたり、知り合いが韓国語を少し話せるので、分からないことは聞いたり、あとは、韓国のDVD などを見るようにしている。
- ・ ドラマを見る。
- ・ 日常でハングルに置き換えられそうな単語があると使ったりする。
- ・ とにかく書いて、発音して聞くこと。

### 3. 3. 韓流について

(1) 最近の韓国ブーム（韓流）に関心を持っていますか。

非常に 持っている	少し 持っている	どちらとも 言えない	あまり 持っていない	全然 持っていない
6 名	48 名	26 名	24 名	15 名
5%	40%	22%	20%	13%

&lt;図 25: 韓流についての関心度&gt;

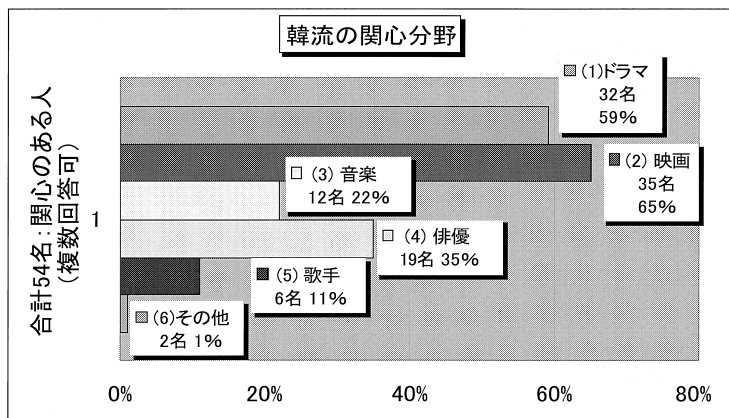


韓流（ハンリョウ）に関心を持っていると答えた人は、119名中45%の56名であることから、余り大きく関心を持っていないと考えられる。また、関心を持っていないと積極的に答えた人は、39名で33%であった。

(1-1) 「関心を持っている」と答えた人に尋ねます。関心がある分野はなんですか。(複数回答可)

ドラマ	映画	音楽	俳優	歌手	その他
32名	35名	12名	19名	6名	2名
59%	65%	22%	35%	11%	1%

&lt;図 26: 韓流の関心分野&gt;



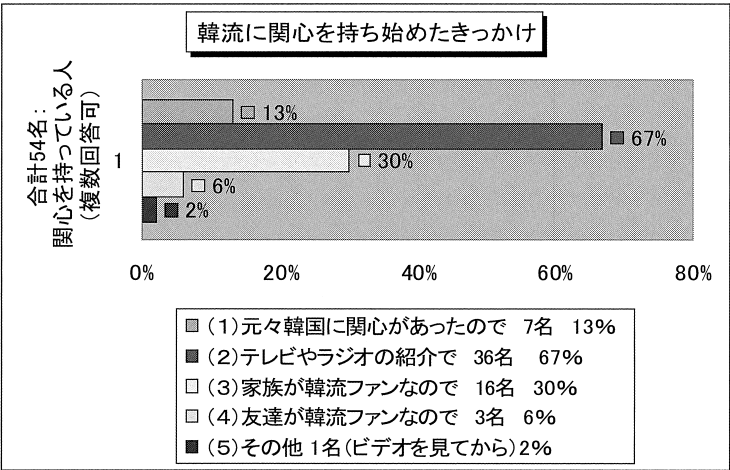
韓流への関心があると答えた人54名のうち、映画は65%と最も多く、次は、ドラマ59%、俳優35%、音楽22%、歌手11%の順であった。その他の意見としては、文化と答えた人が1名、全体的に関心があると答えた人が1名いた。

(1-2) 質問1で、(1)(2)「関心を持っている」と答えた人に尋ねます。関心を持ち始めたきっかけは何ですか。(複数回答可)

元々韓国に関心があったので	7名	13%
テレビやラジオの紹介で	36名	67%
家族が韓流ファンなので	15名	28%
友達が韓流ファンなので	3名	6%
その他	1名	2%

やはり、韓流に関心を持ち始めたきっかけとしては、テレビやラジオなどのメディアの影響を受けた人が70%近くで、その影響力が大きいということが分かった。そのほかとしては、ビデオを見てから関心を持ち始めたという意見が1名あった。

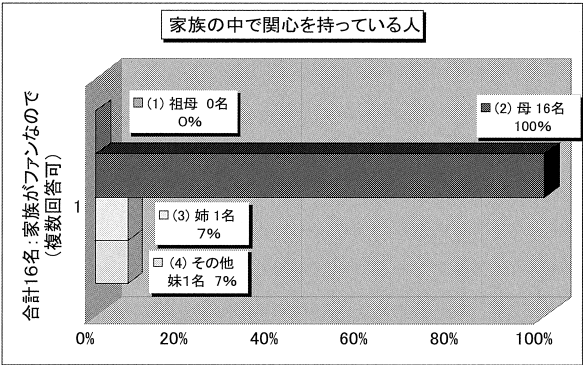
＜図 27: 韓流に関心を持ち始めたきっかけ＞



(1－2－1) (3)「家族が韓流ファンなので」と答えた人に尋ねます。家族の中で誰が関心を持っていますか。(複数回答可)

祖母	母	姉	その他
0 名	16 名	1 名	1 名
0%	100%	7%	7%

＜図 28: 家族の中で関心を持っている人＞

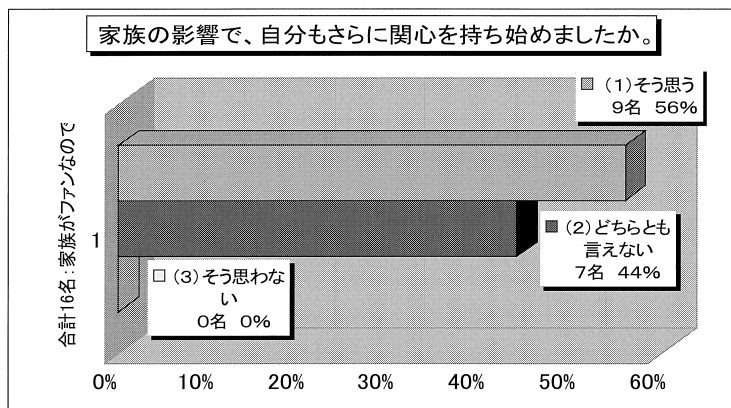


韓流に関心を持ち始めたきっかけとして、16名が家族がファンなのでと回答した。また、16名全員が母の影響を受けていることが分かった。その他には、妹が関心を持っているのでと答えた人が1名いる。

(1-2-2) (3)「家族が韓流ファンなので」と答えた人に尋ねます。家族の中で関心のある人の影響で、自分もさらに関心を持ち始めましたか。

そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
9名	7名	0名
56%	44%	0%

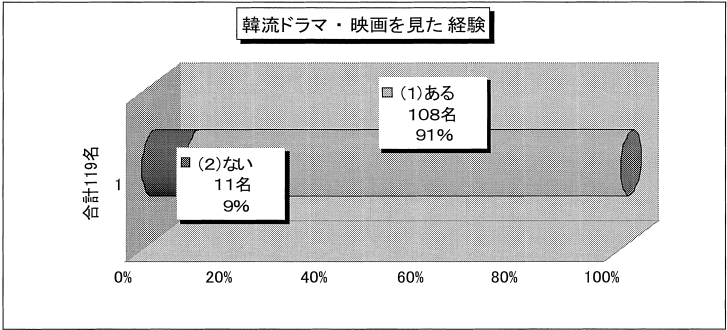
<図 29: 家族の影響で、自分もさらに関心を持ち始めましたか。>



(2) 韓国ドラマや映画を見たことがありますか。

ある	ない
108名	11名
91%	9%

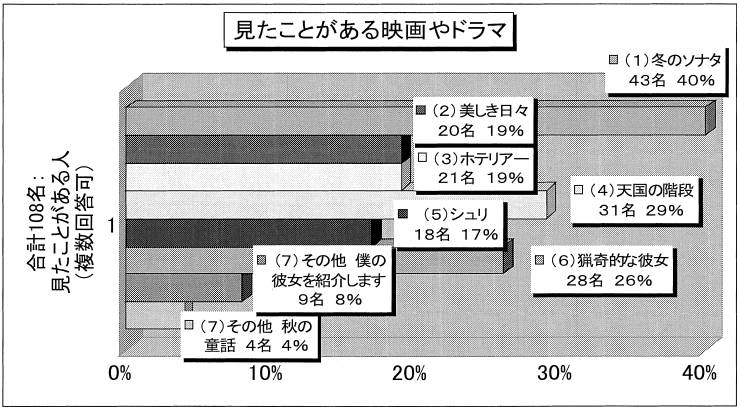
＜図 30： 韓流ドラマや映画を見た経験＞



(2 - 1) 質問 2 で，(1)「ある」と答えた人に尋ねます。なにを見ましたか。  
(複数回答可)

冬のソナタ	43 名	40%
美しき日々	20 名	19%
ホテルアー	21 名	19%
天国の階段	31 名	29%
シュリ	18 名	17%
猟奇的な彼女	28 名	26%

＜図 31： 見たことがある映画やドラマ＞

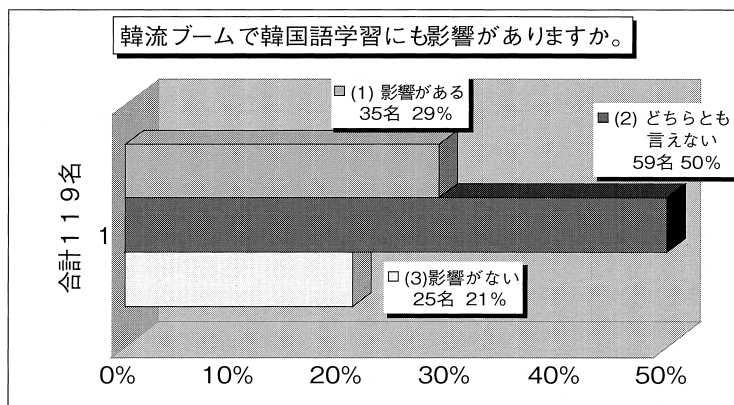


2004年度NHK放送文化研究所の世論調査の結果、「冬のソナタ」を見た人は38%であった。日本国民の10人のうち4人が見ているという世論調査結果と今回のアンケート調査結果40%がほぼ一致している。その他としては、「僕の彼女を紹介します」が8%、「秋の童話」が4%などであった。

(3) 最近の韓国ブーム（韓流）で、自分の韓国語学習にも直接影響があると思いますか。

影響がある	どちらとも言えない	影響がない
35名	59名	25名
29%	50%	21%

<図 32: 韓流ブームで韓国語学習にも影響がありますか。>



今回の調査結果では、韓流ブームの影響が直接韓国語学習にも影響を及ぼしていると回答した人が29%に過ぎないことから、韓流ブームと韓国語学習はあまり大きく結び付かないといえる。

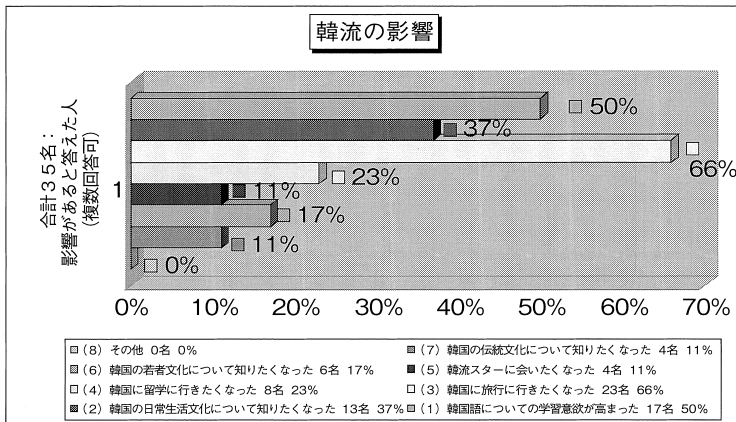


(3-1) 質問3で、(1)「影響がある」と答えた人に尋ねます。どんな影響がありますか。(複数回答可)

韓国語についての学習意欲が高まった	17名	50%
韓国の日常生活文化について知りたくなった	13名	37%
<b>韓国に旅行に行きたくなった</b>	<b>23名</b>	<b>66%</b>
韓国に留学に行きたくなった	8名	23%
韓流スターに会いたくなった	4名	11%
韓国の若者文化について知りたくなった	6名	17%
韓国の伝統文化について知りたくなった	4名	11%

影響があると答えた35名の中で、韓国に行きたくなったが最も多く66%である。次に、韓国語についての学習意欲が高まったと答えた人は50%で、韓国の日常生活文化について知りたくなったが37%であった。

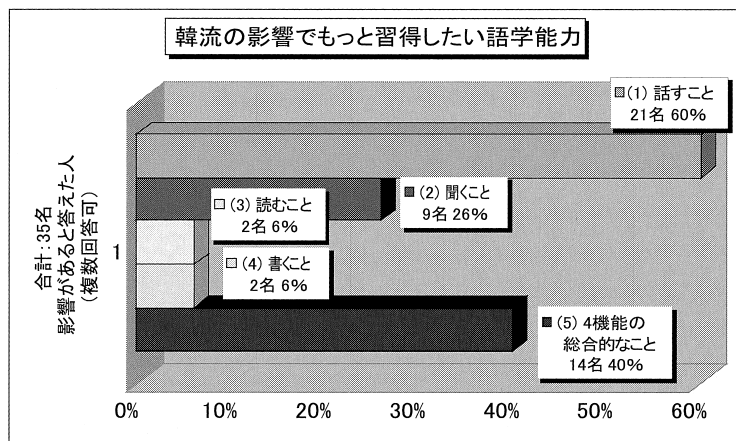
<図 33: 韓流の影響>



(3-2) 質問3で、(1)「影響がある」と答えた人に尋ねます。今後、韓国語能力のなかで、どんな能力を習得したいと思いますか。(複数回答可)

話すこと	聞くこと	読むこと	書くこと	4機能の 総合的なこと
21名	9名	2名	2名	14名
60%	26%	6%	6%	40%

＜図 34：韓流の影響でもっと学習したいと思った能力＞



影響があると答えた 35 名中で、韓流の影響を受けて話すことをもっと培いたいと答えた人は 21 名 60% で最も多く、やはり文字言語（リーディング・ライティング）より音声言語（スピーキング・リスニング）のほうを重視していることが分かった。その次は、40% の人が 4 機能の総合的な能力を向上させたいと答えている。

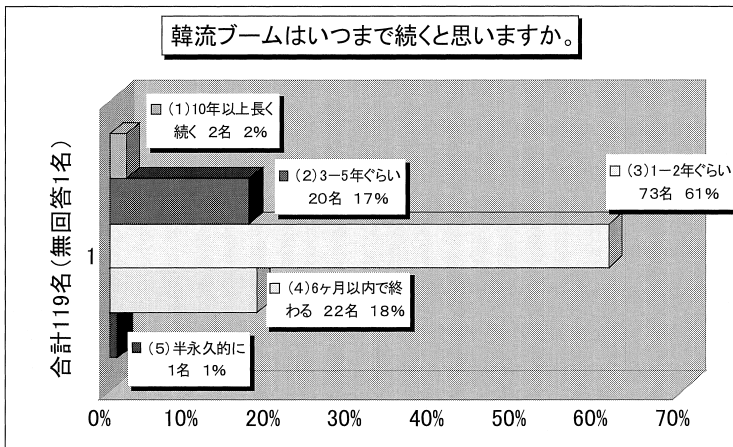
(4) 大学の韓国語学習の中で韓流を取り入れるとしたら、どのようにすればいいと思いますか。アイデアを書いてください。

- ・ビデオを見たりする。
- ・ビデオと音楽を取り入れるのがいいと思う。
- ・映画や音楽鑑賞をする。
- ・ドラマや映画を見て日常会話を学ぶ。
- ・留学生をクラスに入れる。
- ・テキストにある文法が使われているドラマなどを紹介して、どのような場面でどのようにその文法が使われるかを教えてほしい。

(5) 最近の韓国ブーム（韓流）は、今後どれくらい続くと思いますか。

10年以上 長く続く	3－5年 ぐらい	1－2年 ぐらい	6ヶ月 以内に終わる	その他
2名	20名	73名	22名	1名
2%	17%	61%	18%	1%

<図 35: 韓流ブームはいつまで続くと思いますか。>



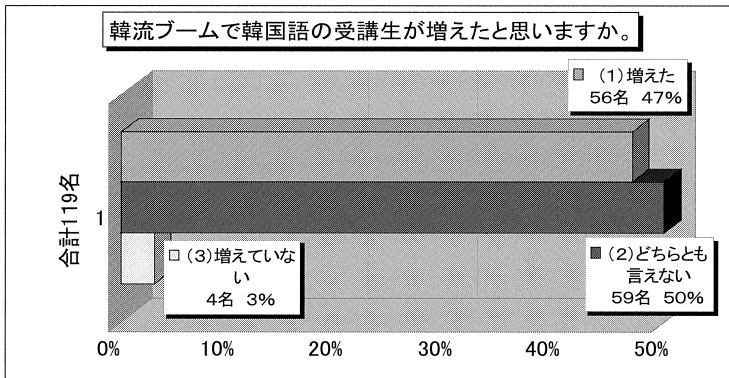
調査結果最近の韓流ブームは、1-2年で終わると答えた人が61%で、あまり長

く続かないと意識していることが分かった。その他の意見としては、1名が半永久的に続くと回答している。

(6) 最近の韓国ブーム（韓流）で、大学での韓国語受講生が増えたと思いますか。

増えた	どちらとも言えない	増えていない
56名	59名	4名
47%	50%	3%

＜図 36: 受講生が増えたと思いますか。＞

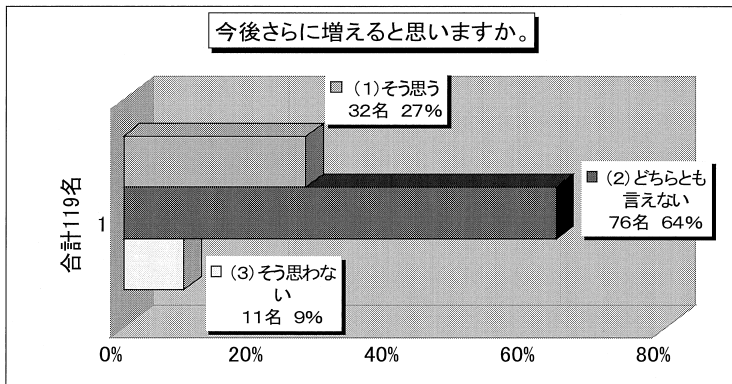


増えたと答えた人は、半分以下の47%に留まることから、大学全体の受講生の増加は実感できないらしい。

(7) 韓国ブーム（韓流）で、今後、大学での韓国語受講生がさらに増えると思いますか。

そう思う	どちらとも言えない	そう思わない
32名	76名	11名
27%	64%	9%

&lt;図 37: 今後も増えると思いますか。&gt;



(8) 大学での韓国語受講生が増えた、または、増える理由は何だと思いますか。具体的に書いてください。

- ・韓国が身近な存在であるから。
- ・日本に近いこともあり、また、発音も似ている点。
- ・テレビでも色々韓国について放送したりしているから。
- ・一番身近な感じがするから。
- ・韓国はビジネス的にも大事だから。
- ・韓国について興味が増し、言語への関心も高まると思うので。
- ・他の言語よりも、身に付きやすいと思うから。
- ・韓国をもっと知りたいから。
- ・韓流ブームで旅行に行こうと思う人がいるから。
- ・日本から一番近い外国だし、今後旅行する機会もあると思うので、旅先で役立つ程度の能力をつけたいからだと思う。
- ・やはり韓流の影響が大きいと思う。韓流によってハングルに興味を持ったり、これからハングルの必要性が高くなると考えたのかもしれない。
- ・韓国語を少しでも理解できたら、映画・ドラマを見るのが、更に楽しくなるし、もっと興味を持てるからだと思う。

#### 4. お わ り に

本稿は、最近増加傾向にある松山大学でのハングルを履修している学習者がどのようなモチベーションから選択しているかなどを調査してみる必要があると考えられ、外国語教養選択科目としてのハングル学習者に対する学習へのモチベーションと学習目的、学習に関する満足度、そして、韓流（ハンリュウ）に対する社会的関心による韓国語学習への影響などについて学習者のニーズ分析を行い、その結果をまとめたものである。このようなニーズ分析は、学習者の意見を反映し学習者中心の授業ができるようになることから、教授者と学習者とのコミュニケーションがいっそう深まることができると思う。

今回のニーズ分析結果をまとめてみると、ハングルという科目を選択した理由としては、日本語と言語構造が似ていて易しそうだからが40%と最も多く、その次は、韓国に関心を持っているからが38%、日本と距離的に近いからが34%を示している。また、大学課程の教養科目としての韓国語学習の最終目標としては、旅行などに役に立つ簡単な会話能力の習得希望が一番多いことから、実際すぐ使えるコミュニケーション能力の向上を目指していることが分かった。

今回の調査結果、学習者のほとんどである80%以上がハングル授業に対して満足していると回答し、大学での望ましい教材としては、学習者の50%近くが日常生活ができる場面中心の会話教材を望んでいることが分かった。好ましい授業形態としては、4機能の総合的授業が53%と、一番多く、その次が、会話中心の授業44%、ネイティブ・スピーカーによる授業も34%の割合を示していた。しかし、ネイティブ・スピーカーによる韓国語だけの授業形態を望んでいる学習者は一人もいなかったことから、韓国語だけの授業には抵抗を持っていると考えられる。

日本での韓流ブームに関する社会的大きい関心は、現在大学で学んでいる韓国語学習者のほとんどが、あまり大きく影響を及ぼしていないと回答したことから韓流と韓国語の学習動機とは大きく関連づけにくいといえるだろう。しかし、2004年度NHK放送文化研究所の世論調査の結果、「冬のソナタ」を日本国民の10人のうち4人が見ているという世論調査結果と今回のアンケート調査結果でも学習者の40%が見ていることは一致している。今回は本人の担当している3つのクラス119名を対象としているが、今後もさらに調査対象を増やしてその推移を続けて分析していきたいと思う。

## 参 考 文 献

- 간노히로오미. 1991. 일본에서의 한국어 교육. 새국어생활. 제1권 2호. 국립국어연구원.
- 강승혜. 2002. 재미교포 성인 학습자 문화프로그램 개발을 위한 요구조사 분석연구. 한국어 교육 제13권 1호. 국제한국어교육학회.
- 김유정. 1999. 설문 조사 결과를 통해 본 한국어 학습자들의 인식. 한국어 교육 제10권 1호. 국제한국어교육학회.
- 김정숙. 2000. 학문적 목적의 한국어 교육과정 설계를 위한 기초 연구. 한국어 교육 제11권 2호. 국제한국어교육학회.
- 민현식. 2002. 언어교육과정의 구성요소와 교수요목(Syllabus)의 유형. 21세기 한국어교육학의 현황과 과제. 한국문화사.
- 성기완·표경현·이현명. 2004. 대학 교양영어 수준별 교육과정 모형개발연구. 외국어교육 제11권2호. 한국외국어교육학회.
- 안경화·김정화·최은규. 2000. 학습자 중심의 한국어 교육과정 개발 방향에 대하여. 한국어 교육 제11권 1호. 국제한국어교육학회.
- 이해영. 2001. 학습자 중심 수업을 위한 교재 분석. 한국어 교육 제12권 1호. 국제한국어교육학회.
- Brown, H. Douglas. 2001. Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy. Longman.
- 板山眞由美・森田昌美 編. 2004. 『学習者中心の外国語教育をめざして』. 三修社
- カイト由利子 外. 2002. 「外国語学習に関する意識調査—学生による質問票調査から—」. 関西大学外国語教育研究第3巻. 関西大学外国語教育研究機構編.
- 菊地恵太. 2004. 「効果的な英語教育プログラムを目指して—カリキュラム・デザインとニーズ分析—」. 国際関係研究第25巻第2号. 日本大学国際関係学部国際関係研究所.
- 久保田美子・奥村三菜子. 2002. 「ケルン日本文化会館日本語講座受講者に関するアンケート調査結果報告」. 日本国際センター紀要第12号. 国際交流基金日本語国際センター.
- 小池行夫 編. 2003. 『応用言語学事典』. 研究社.
- 国際文化フォーラム. 2003. 『日本の大学での韓国・朝鮮語教育中間報告』.
- 国際文化フォーラム. 2005. 「特集韓国・朝鮮語教育をどう位置づけるか」. 『国際文化フォーラム通信No.65』.
- 近藤弘 外. 1999. 『ドイツ語教育の現状と課題—アンケート結果から改善の道を探る—』. 日本独文学会ドイツ語教育部会ドイツ語教育に関する調査研究委員会.
- 坂本裕子. 2004. 「第二言語習得における学習の動機付けと学習意欲」. 言語コミュニケーション研究第4号. 愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会編.
- 山下高之 外. 2003. 「学習者ニーズに対応する日本語教育プログラムの実践報告(その1)」. 九州女子大学紀要第40巻1号. 九州女子大学.
- 和田稔 訳. ブラウンJ.D. 著. 1999. 『言語テストの基礎知識 (Testing in Language Programs)』. 大修館書店.

付記：本稿は平成 17 年度松山大学特別研究助成による研究成果である。

- 
- <sup>1</sup> 国際文化フォーラムの資料によると、1995年度の四年制大学における韓国・朝鮮語の名称は、朝鮮語が39.9%と一番多かったが、国立大学では朝鮮語が80.0%、公立大学では50.0%を占めている。1995年度と2002年度から2003年度を比べてみると、朝鮮語を使う大学は増えているが、実施校に占める割合は低くなっている。2002年度から2003年度の短期大学ほかにおける韓国・朝鮮語の名称は、韓国語が45.3%と一番多く、1995年度でも韓国語が35.7%と最も多くなっているという。
- <sup>2</sup> <図1>は、和田(1999)が、Brown 1989bを改変したもので、教育工学やカリキュラム設計の分野で幅広く認められ使われている「システム的方式」である。和田(1999:4-11)は、NRT(norm-referenced test)を集団基準準拠テスト、CRT(criterion-referenced test)を目標基準準拠テストとして提示している。NRTは、個々の学習者の得点は他の全受験者の得点と相対的に比べて解釈されるものであり、CRTは、一人一人の受験者の得点は他の受験者の得点と比較せず、その目標に示されている知識や機能を何パーセント習得したかを示すものであるという。
- <sup>3</sup> 近藤(1999:16)によると、日本の大学での外国語選択は、入学手続きをする時、選択する場合は189ヶ校60%で、入学前に選択させる場合が半分以上であるという。また、学習者の希望通りに受講させる大学は54%に留まり、それ以外の大学では、1・2・3志望に分け学習者数を調整する所も30%ある。したがって、本人の希望通りになっていない学習者もいることが分かる。